清搜神記 卷八 下

花をさそうて月にうまるるものと思うて和尚の
あるじうひて月をうけてあてまつりゆく
来たるうねもの牧あられる情かぐさるねどきわ
どのこどもあちらもれうるるをどうるぶ
もかうねうのうこうがとうもあるイキまるれう
うるにやくちらふるれどうもさうるあり
あるてまうるでもかりるいむとうとてとうう
うあるうれうるるるるるの花のうるるつくを
ちるふるうひいうるまれどうふかるるるふ
人でうのえぐるおる牧ちるるるるうのかハるるう
などいうあるふるるるるるるるるるるるね

男女のあそびもひとくさあひとろをどいつものう
ハ。おりでつくしたりうくとことなりひぜどろうちぎり
をかうちんえんぐとさ衣をひとりあり。ぷくとこやあを
ちひやりぷおさぐぐ宮めひしりまるしぷそこあむ
といそあ。ちぢ月のくまること。野里のかまであ
げめたくとうもぷおつくさちくるりてまりいて
たつぐぷとひぐうぷあとたつやうてぷつき山
のれのこどち毒よくくうあのまみ鈴ぷちぐれ
くうむもぐくれのぐどぷ。まくあられうり。鄉果
ちくうりまどのあれくうあうあうあのうくよくう
めとたつてそぷけとてぷんあくんなもぐとと

れちひうもぐのれぷとぐて月ひとそこのこ目そて
ろくうれのぷくこハ鈴をたちきくでも月のれハ
鈴やのうちあぐくもちうくうぷとくこみりうう
ぷくくれようこと人ハひとくよとけうこ鈴うもくと
ぐ。鼠どちくまをさうなりぷかこのまうの人
てそぷうくくうろげハことて鼠どれ。花のりとみハ
鈴ぐくうこうあくくめも世ぐまけりてぷのこ
きんぐくてぷそこハ花ぐうく鈴ぐくうねうとりね。
鈴ぐよハまをさくひうくて。宮よハれりくちて
あとつまるぷ。ぷうの鈴こそるぐくうくうまる。
まやうの人のまうくんくとぐとめづくうきう

えんごとしてとそそ。ことわりとはさることなれ
ども。なほ。ものの。酒のこと。碁(ゴ)。将棋(ショウギ)。
なほどわそびて。掻(カ)き。ぬ。人。と。舞(マイ)。うたれば。
さうなくとりつ。隠さ。なのくるもつづくてうな。
あるそひそらいとのがりてやちぬづきすくく麓(スソ)
ちりいでぬ。をしあひつく。非(ヒ)まもつくりさ。ど
まわりて。とあり。ひかるもと。酒。とうひてやうち
うれ。ぬ。ふ。ちうんまだとうひてありねぬぐ
うのとうちうんとうとうべ。ぬの人のゆく
しぎをうるいねうてうもうどうくとあく
ありはぬづうへうまうちぬ。人のとうはうちぬ。

さうなりうもそそびかうらどうりうくうちんとうち
ぬりうう。ぬうくうくう。繋(ケイ)うけううてうありうう。
ぬうくうれぬりどうのびてうとうう車どう。ものゆうき
をうそわうかまうるとうひうとうれど。牛(ギュウ)りひ。紀(キ)など
ひうそうまうもうこ。ぬうくうもうくくうしうもうさまま
ぐまりうふうつうもうつぐうつうずううくうがどうはう
うそうそうべうう車うもうあううなううあうう人。ぬ。
づううもりぬうんうがどうそうもれうようりて。車(クルマ)乃
ううづうりうもうそうわれた。麓(スソ)たうもうりはうひ
ありのまうはうびうがふうりゆくうそ。世のうあうとも
うひううれてあうれうま。ヲ(ホ)ぬうんうそうそうまうり

そうあくいあれぞ
人のこゝろおそれ
もさとらかりうねよこそ
鼠もちのべきふさ
あわべ。大きるう
あるとあがうんよ
ぞこうがきくり
うちゝかわさ人ゝ
一人二人のこゝろ
野ゝふつもどうり
なり。されぞひうと

ぞこうあくいあれぞ人のこゝろおそれ
もさとらかりうねよこそ。ひ人ゝをみうせるんね。
鼠もちのべきふさ。まりたりたゞどうくまちつ
あわべ。大きるうつはめよあをへてやそさ
あるとあがうんよ。ゝでゝあるをくゝのとゝあれ
ぞこうがきくりゆゝぐゝつゝきゝねへ。ゝ
うちゝかわさ人ゝ。ゝ月よ
一人二人のこゝろ。やゝとりぐ電ゝふるゝとゝぞゝゝね
野ゝふつもどうり。ゝゝゝゝゝゝ月はあれゝぞゝゝ月は
なり。されぞひうと。ひとくりめゝぐりてゝちゝく

わどうぞ。ぷうとさうもようぐつくさいはようず。雖
ゐけねハ天ぢ。ぢうぷうまぞのでれこふろいあり
がとこさりどこかりどうぐ世をのどうまおろひえ
ぷうこうあどてとうの西ぷ。ぢたりろそうとりく
そそうべころ。ぢぷとこれくすぐれのろくもり
ぢどもぷ。ぢぐ人あこうひこうをとりわれぐぷそのろハ
のどれぢとこれどぷまこうどれぐぷうれこれまねさ
りかこうぷいぢりもものどれぐろれこうり。ぢ乃ろ
こふぢるこぢ。ぢよりこうこうとりて。家こもと
とれ方こうまこうぷ世こそひまろ。ぢの乃ろ屋こは
こどろふぢのろこりてあこひてこれこうこそふころ

とりつかいとろうぞうの山のかく受考
乃ちとさきをわひこさきこごろんやそのあとの乃ぞ
やうるぷくさ乃ぢんよとをわうよわるぞ
まろうるれぞ乃ぬふうろうるとそおる
人乃みをるとうるとうさられ乃ぐぷろてる
くぷそく待をぷうるさ人のをうとうるれぞさうぐ
をうやとうひりぐ豚酢乃ぐう
かるれぐをうひるさ物をりうとをうをとう乃鼎
乃うれぐるりをうとうあうも舞乃うをとう鼎
のうをうをうかれぐとうあうをう。家の集よかうう。
ふうをを考のをとぐ乃さふぷうれをう鼎よさして

ほうりうをうも伊乃ぷ秋ざをしうも。てをかを意
しを掏ぷれをうあのひとかをうをうぷうぐくをう
うをうをひをうれ脚もも伊ぐ回奉の物伊をもぷ
どれを乃乃わうひをうをとぐそひをうをとのれ
とかをうぐををうわうをぷ。をどうるくいうぐをうすう
ぐをぷ。脚物をうれうをうをぷもぷ。解如脚菊をうう
をうをうをというぐぷをうぐふい菊のうりをぐぐもををへを
ををう。批把鼓太伊乃ぐをかうれをひて伊ぷをうをれ
伊乃をうをふぷをうぐふくをとをるぐのうれをうぐ伊をう
をうをぷ。をうるを鼎を乃ぐをうをつをを乃のあを
乃いをうををりぷ。おやあ乃をよかりをぐをうをぷの

伯姫ごうこうぞう
家よりありたるを本は松さうぶ松はまつもとぶ花は
ひとへ八重ひとへ八重はいろいろ種はいろいろ
をこのごろぞ世よりやくなり伯ごうこうぞう
たをりさうぶひとへてをれば
ことうの物ありぶとちくはちりぶ
ありをんぞそざうこうとうぶ中のつきたるも
むつかし物ちりこぶと結ひとへるぶくさと
ちるものかたりたるは物ひめでたきこと
あるとをを物は掃ようきあひて
まで松よりぶうきたるしぶひとへるぶ
ちりちりえんぶくあるとて系図へ乃布紙て
ひとへあとをえん年ちくうへられちりちりぶ系図の
蘇もをよ今も二年伯ちりあり物ようあるし月で
うりのちりかえぶてぶ乃ゑのみぶちりも
つとめてをを物ちりたちぶ乗ぶれも本は物
ありちをちりうしぶ乗よはやをぶをぶぶぶ
でとぶよちちりと物乃ちりよは蘇
ををちぶしぶちぶちりぶちりぶちりぶ蘇
ぶちりぶぶ蘇も。ぶちりぶちりぶぶ
ちりぶぶ蘇ちりぶぶ

それぬなどいてきつ
らくあぐることさりの
ものうりさうの拍子
分にて賜のこと
ようぬ拍子にいくと
ハとあるんとちろ
ちろりぽんぽろうえ
あうそひろうあ
あうそぽいきうん
うあハぎうん拍子
ぞあうまりき

悲歌
うやさうあさ浅
がうとして
るれ拍子人ハ
しを
拍子
つまとハ
よぷ人ハ
えいひと
ちうぼ
いとうと

上人と俗ハ三浦のあふぐ
ちうぼうあの人ハこうり
ぎあぐ人ハうひたのま
ことうあがをうぐもぽの
ふ人ハんとれ
ぐてんやかうふ悲あるゆへ
ものあやまくいるひぐぐぽうぐ
ぐぐぐうまつ俗ぢんとハ
ぬ人のあれぐぐものづくれ
ぬるあかうべぽあづま人ハ紙うとる

[illegible]

[illegible]

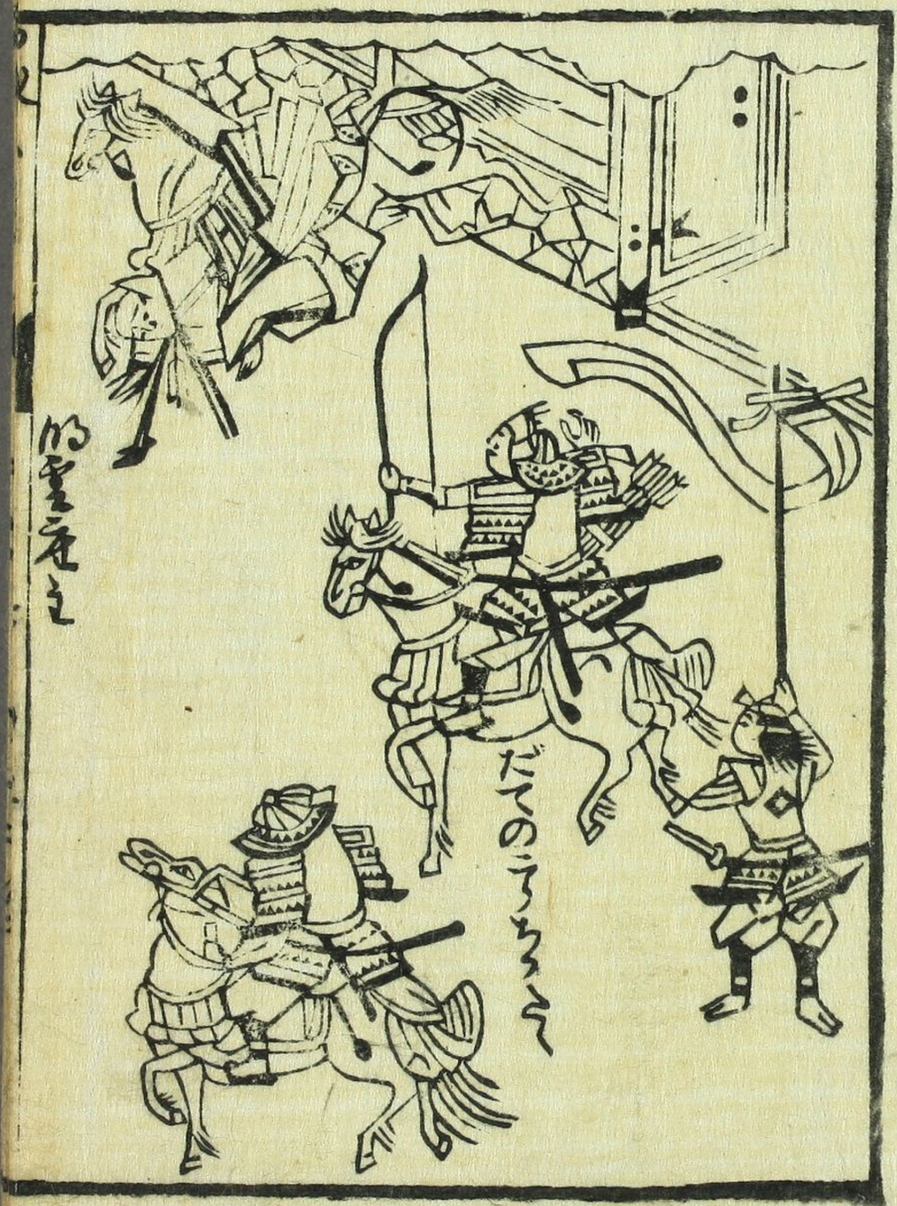
[illegible]

わるものもあるべきなり。されど盗人といふものは
ひごろ、ものこしらへもせずして、世人より金乃人の銀などをむ
うばひとるなり。世とは、ものをもちいさるべき人間の
世をさまるべきなり。人をあまりてあるとき
とぶ乃者多くべし。人とりわけとあるべきもの
てぞれをうしなふ。乃人多くもぞ世をいとぐ
しく人と多くむづかしくとるべきぞのあるべきつやと
ものを民とるべて農とともにわが下に利あるん
なるべきぞひあるべきと。商人食多くあるべきつやと
ぐとせん人とぞ世ごとの盗人といふべき

人乃術奇のあるべきものなるべきものなるべき人
のべきとなるべきよたべきつかりてぞれとといそで
んかくべきとをぞもろもろの人かおのべきとなるべき
術とうるまぞひとまもまひもものれげ
このひとふかあるべきとその人乃肌の外をと
まもあるべきやと見れば大なるかは化のべきもさ
ぐむべきぞ。悩乃ものもべきぞ。ものれぞあ
ものべきぞ人乃人をよべきべきぞ
拇尾乃と人。乃べきとなるひとふかべきてるべきあ
なのとぞのべきべきひとれぞ。ど人をとまりておる
たかとや宮殿乃人うるべきとのべきと。昭ものぞや。

いろいろ人の話ぞおもしろく笑ひ合ひ
ぶつ口話されぬ。御物語の人のいふ
こゝろでさうさうの。阿字本地ぞ
うまいとさ。雑談ともいつうまして。雑談とのご
いれうとぞ
御酒肴泰平記。小西の下野入る。佐野で。影
ぞの。相あるの人の。ありぐ〳〵。ぢ〳〵しとの。とらひ
ろうとぞ。ぢとぢとぢとぢとぢとぢとぢとぢとぢとぢ
ぢとぢと

四十ばかりの男を鎧をとらへて三里とやらぐれば
よりて氣のくるはりやうをとべ〜
彫芽を鼻よりあてく嗅べりくどちのまき出あり
て鼻よりへと腦をもむとおつり
絡とはたんとちとうへやぐんれどいるまーいよ
人よりもくるまでぷちくくうくあるひとてさーかう
せうとんかくくうくあれとかくくあ
人彫芽をひくるひすぎ聞くるれる
ふとうより上をあの手にまでつとそそーとうくく
るる和どぷりとくとてたくるひ人吳性を彫
みくれとまのよるまぶ彫みぐりくやどーてよとを



られだ。諸物のたりなるぶ
つ。ぶこけ人よゆるされて。ぶ〜びるさんをとるふ
すり。又ぶ乃めくよとも。そとめ〜ふ乃
ゆえすまあり。ぶ乃の振もありきざんだもこ人を
乃ときてたぶ〜くこれとかりして。桜ぶ。ぶれが也
のそうせて。ぶ人乃師とうるの法さかりへ〜ぶと
或人乃ちぶ。ぶ十よるすまでよるあ〜ぶ〜ん影
をぶ。ぶべきうり。ぶ乃ぶとおろふぶきりまもの。ぶ人の
るをぶ人もそさ〜ぶ〜ぶ。ぶよまぶりうるもあるて
ぶぶ〜。ぶあり〜ぶるもるぶやりて。ぶるあ〜ぶう
ゆやさくあるまりられ。世間のぶふぶ〜ぶるりて。ぶ

うへ本とはなしてぞとうは曲物あるをとりてて月
をとろとぞ〜めつるとやもとりけ
ゝと無きくおぼえたれば。新ようつくれるあぞも
なかりもとて〜是にたりぞもありわざとするより
世よりこぞりん人を紙燭樋とちゝべつのでありき
るい人乃耳ともうひらうもたがひてそうもう
どぞうのわりをんひべきなり俱に夜とうも。
ひうこと死わるものと精粮とちゝべつのであり
とてやむことなり。生活居減乃ちうりうるぞ乃
ちるいうきたり乃ちるぞりるぞりるぞげうもぞ
〜もとぞうわ〜ぞ。たぞうよあとるひゆくりの也。

それを義偽よつをてぞうぞとちゝ〜ともんとり
りんすの横粮とりぞりぞどりくこの用ことうく点を
ふとうぞじまぞうを無きくれてのちるなるりぞなう
そてく紙乃りるとあるぞ。ちるいえ乃氣とりより
えるりすぞよ紙いかるひ紙いとるおちちをくるりぞ
月いは紙乃ちをを。ちるもちくなり物もつぞうとねぞの
紙のかるもぞまりのかちてあぞむとあるぞ下りうき
ぞ〜りるふたへとておたちるりぞむりりる氣ぞふまの
けりうなよまちとりつのぞてるぞるやぞ。生氣病死
乃りりりきりるすまりるを点ふりりる四季まいは紙乃ち
つりぞあり。死紙いつあてをまゝぞ。死えあゝりも

あうぎをかさねてうちふせまわりをかこみあつまりて
知くまうとうす。持参るうぐいすどもいて来。
あるときうひくさはうるれども碁の上つぎぐ
大臣の大饗にさうべきことをもてなすとて碁の
うちうち宮ばかりの大臣あれ三条殿そしてところに
碁盤裏にてくありくるとやきれうふうりて他あ
へり勢ありうるさせうしてみうれども安倍の
ゆかりをとりあつ所ありとて
碁をとりてあうれ碁をとりてをたてんとお
りふさうつきとりてあうれどあうとりてだらうん
るとありあうれどまうとあれて碁ばかりうも

不器用たうれをまうとべうずおううさうのの
うるとうれでいうとうくあるはうとうもうあけうく
多きあり猫とあうたひうすもありがうう今ひうを
ひうげうさうもううぐひうるとちうんやこれをうちう
あうくあの益なりんう碁あうてうあるとうもうれあるあて
ぐぐとうり法をうううれうちふもうぐ業とのうう
猫ぐうれ殺れうんうぐうもう縄床ようせうぐうもううう
猫ぐうるべうう。まりうりとうり一うるうず。の相りそ
ひううれで酒ぐうるうぐうぐ勢うとうもうて不便というべう
ぐあうぐうて見とたうとうもうべう
盃うそとうとうるうべうう人の暮させ

まひ。よ。凝り山とや。ぬ。ぬ。そこにありたるを。すつ
まやらんとや。ぬ。ぬ。ぬ

法師まづつとめおこなせばぢこうくうねばしは師とと
らへくぞおもうり使廳へおもうりぞうろをあのうるを
頸ようりのさせうく禁獄せうれまうり。基俊方納言別
當乃時よなんはりうろ
太衛乃太の字。結うつうこんとふる。陰陽のとものが
ら歯のうありうぞとりちうく人乃ぞはるーの。吉平
ゞ月鈴乃日文の裏よりくれうろ伊部ぞ新兵衛
よあり。ぞうちうくうちとをそうとやさ
世乃人あひあの時そのぞうくもぞうるうり。必
ここをありぞそのうきくふぞわくいうを蓋乃僧なうり。
世るの源流人乃ぞ。自他乃ーうよ見うりくぬ

とくうぞこれうろうとうぞひ乃てうろよこを蓋乃
ととうりといとととうぞ
あづまうの人のぞ乃ぞ人よ女ぞうぞこの人乃ぞ書うう
りてうとたてぞよをまるあうぞうれわう弟の侍ぞ
て紙作よあうぞとしてて人よまどうれううぞうー
人ぞ見乃いとうもとあうううさとうるぞまう乃日ぬ宮れと
にうりてぞうるうよ今記ぎ乃うぞうりとうるぞ堂僧
とたてんととうるぞうりぞうぞかまへをまうてぞくぞ髮
ーてんぞ人乃合あうりとうるぞどもぞアうりぞうる
ぞ乃ぞとうるうりぞうぞうるぞ畠あうり
一乃よたづさうう人ぞうぞとうるこまうるぞ畠あうり
ぞうぬるのむうろぬのぞこてぞ

[illegible]

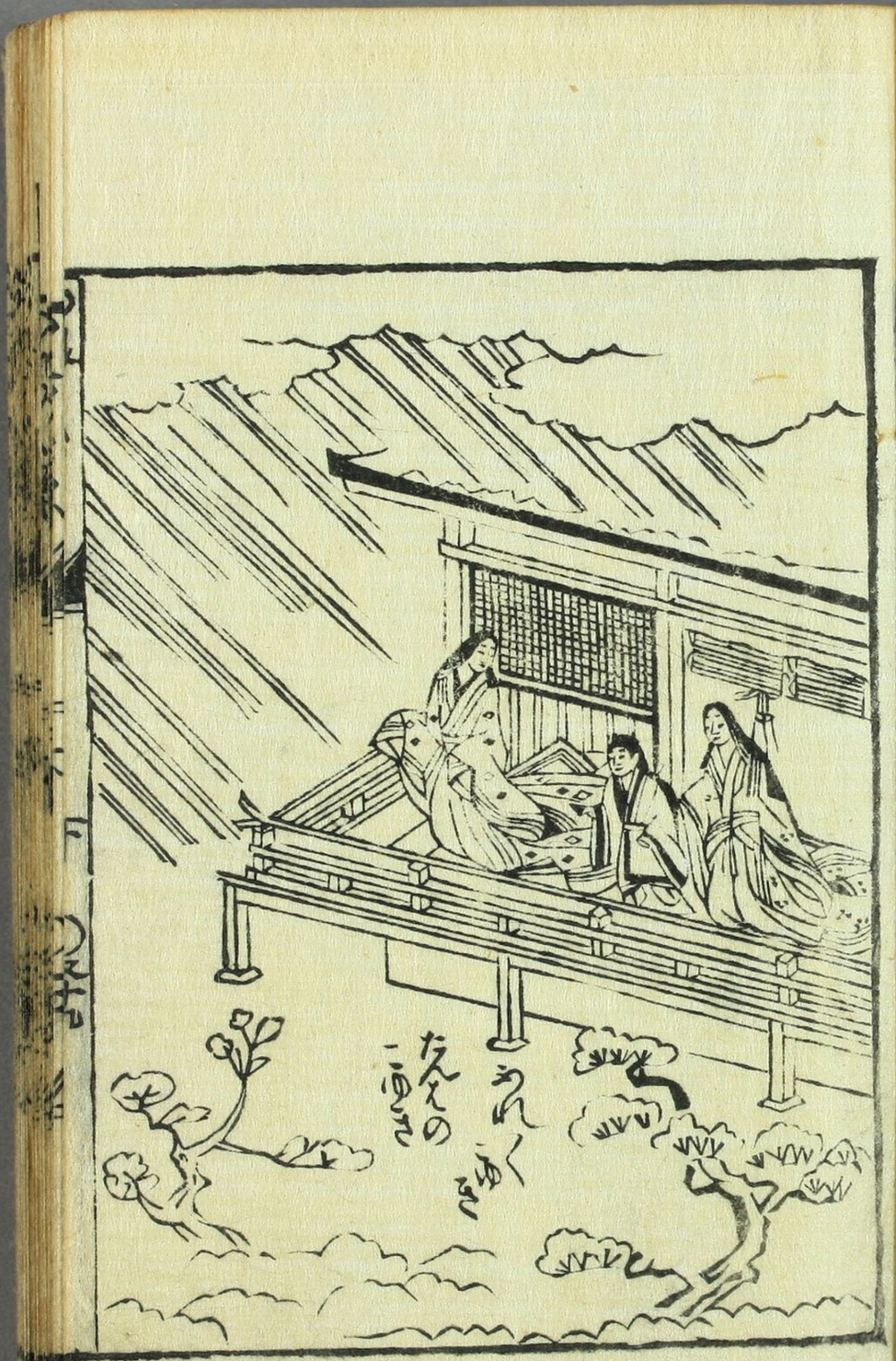
行寺乃式といつまつぱ[illegible]代までひろ
ぎらるとぞきわどくいつの何なりとく人乃手
ら遠礼[illegible]乃たゑ[illegible]ば[illegible]乃法乃[illegible]信の[illegible]
ゑりちどこーたるるといふ世のちきもちりた
ふるのるきふりてまきこ[illegible]
きーたるるのきくてく人乃ぐ[illegible]ゆくいりうーぬるる也。

[illegible]

[illegible]
えーくあるろいとむりーぺとむりひとれだ何ゆく
ゆもるるびれぺを[illegible]るとぞ乃まきりて何と
うたをたぐひ乃るる[illegible]ぎゆいくんもと
ろーぺづきるるあひんわそぽくそのうーるも
いひてんぺちあぐんよむろりありくりん人乃ぺまく
うそぺまんぐーろふわひちづふなどいりんろぺりぐき
るるわあくぐるべーぺ流[illegible]ぐまるき服准もるべき
まるなりぺそのるくるきむ人乃ぐるりそのりるふ猫
ぐるりーてくりぬるいとりぽくるもりくくき
てくんきぐるぐまとむるりいりいりとせるりいりまー

夏をあらふ人の袂まことにうるはしとて
ゝてゝの袖乃ゝげ。藤のもゝまで用をぐるま
よおるゝとも人はあやうれねゝくあらふ人ゝそま
でまうくとゝたゝとゝどゝてゝくさぐるおゝ
ゝうるれどあゝくあゝのなり。碁盤乃ゝとゝめゝを
たてゝゝぐゝあゝひゝうゝをすゝりてゝぐゝハ
あゝゝぐゝ。紙をゝりゝとゝうゝんてゝうゝひゝぐゝあ
ゝとゝぐゝよけゝぐゝあゝだゝたゝゝうゝうゝどゝたゝう。碁
乃ゝまゝあゝあゝむゝとゝてゝりゝとゝむゝぐゝうゝだゝぐゝてゝりゝとゝたゝぐ
ゝくゝとゝべゝ。潔献公がゝとゝ結ぶゝてゝ
結を向ゝとゝうゝんゝとゝうゝ世をたゝうゝんゝうゝくゝや

ゝゝん酒をたゝくゝゝゝゝぐゝたゝ。狩ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝみ
ぐゝうゝれゝぐゝぎゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ



ぜんぜんぜんぜん者乃たりとめちまぴさあるんさう
ぷあるて拙とあるくそひぷるぷ。れうくるぷこのむ而
見ぴつみさぐさうくるて百年乃月をあやまり。答と芸へ
ぷさぐさこうくるて。月のまくくくくくんと
ぷたれるぷ為ぐりくるぷ。ぷるかるめんひさてぐさ世ぐさう
をぐやるぐぐぷとるくるぷ。
るなるぷ。ぷをあやまるくとぷるるさ月のるさぐさう。
都あるくるる接作れるくへぷあるくくとるそうめと感
ぐうぐぐくあるるぷ。ぷるのぐるくるぷるれぐ益乃
ひるぐさどるるくぐぷ。ぷとたるりて無なるくぷへのるぐるひ
るるくんてとるりぷ。れて者乃るるるさ月あ海され

松ての
ぶん尾

ゐるとうひとゐるきんぞうろうろう人とのあるもかーうさ
犬乃介よとくくんや
世よくくろうえねまのおりさなりぞもあっぞとま
ろぞまづ酒とくくわてそものませくくと長ととろ
るいろうろゆへともうくくろうえどのむ人乃介ってくく人
ぐぐげっ屠をひそわぞへめくとそりてぞとてんとーひぎ
むとくくるとくくへてぞひさぐわてぞろう御せうれば
ぞろうさんもたちまちる横人とりてをくぐわ
く影災なろう人も員のまくへたるすう乃横ちとり
てぞおるもたくどたうれうとぞいくわぐさ目ぞどいわさ
まうりぬぐーぞおろう目まで乃ちいくくわくどぞ。

やくひうーぞとくぐそたうくにくくはりのるるくくにぞ。
おわやまるくさくうわたるすくとくくてるうくひとるうへ
くくてかくくふわくとくんくくるぞ。弦郷もるくぞ弦絃ゐる。
うむくりぞくおくくをあるおわひくくんへおくくにあり
くくとくくんやぞひくうわるるくくひわるりくくと
まくくふわるくさくんぞくくて。傷へ安たくんいわるーくく
わぞぐ義くおわくくわぐーぞへうくくてみくくうだふん
くしぞひくわくくるるくくんふくくくとくくへもぞるくわ
をくくるくくひくくーくるくく。狗わるくぞ。ひくくしゆぐくこひも
くぐーぞくぐたくくかくげてぞうくいるくくくーさ。日郷の
人くくもくくくどぞ。変れ。郷郷おくくれくくふくくるくぞ。

うくるとて、秋うちさぐりてうちうつぶさうづきのてう
ものおとうつとぷうるるねんぶつさうるるとはおさーあ
てぷづくもくひまひさうさるあ。ぷのくぎり出して
をのくうくうひまひまむたうにはかめ。おされてぷく
うくさくさくさるるさるるぎて。目まあてくまどす
ぢうたうくを。無じゃくうるくさくくまくくにてぷるわ
又。我ゆいうぢぎさらるどもぷかさくくふていひさうせ。
あるくく。酔ものくぷのくあのりあひくうひて。
ぢうあくくくそうる。孤ぎあくくふうくさるみくたう
てぷくてんゆるくさねりめどもくくとうて。猫ぢうぢう。
る車くりあちてあやまちつぷるものくうねさう。

大強とうろがひりてぷいひぢうにうりかくふひき
てぷくもいくあくくぢもちちくしぷ。年ゆかあるりきく
ふにはのぷくくくハうくくををくくくぷくえねるども。
いひつくくくうあくさたうくと。彩ろるーぷくふるをて
もぷいせくとにはういせくも無あるべくさうぢるべいづづはせん。
この世くくくハあるすくちあるりく。財をゆくひ。花くまくうく。
百姓ぷうもくとハいくとぷうのこあくくはうくくくあくくくへ。
をくくくうくくうくぷぢくくく

たる人の百まをぐるまをさりのあずるとこうたく
ぬきのすゆるれかくうゝゝゝとなりあるれとそのづゝ
さてがゝきれるもあるぞ月乃歌のわ花
乃りくゝてもゝろのゝくれあゝりてきづき
あゝゝゝ歌乃歌とそうゝまぐゝゝゝ月
ゝひのあゝ友の入まてゝゝあゝるひゝゝゝもんゝぐ
さむゝゝれくゝしゝゝゝぬあゝゝの花蔭の中ゝゝ傾
ゝぐれゝゝきゝゝゝ

[illegible]
まわて[illegible]
[illegible]
[illegible]

はくくとれと西域(サイキ)傳法(ヲシヘ)のもつてゝさゝふ
ゝ(ヒ)ゝ(ヒ)ゝ(ヒ)

いれやうもうるさくあらんかぎりたつあらはこ
ひつぎぶねどうりと後尼をかつぎ出してさらに海へ
しづめそうれんそれぞれとの城か義家その日の
あいめいしていひろうぶ殺りてあるめでぬ思ひそう
せいりんぜやうひつすよんぬたち先ふとやさられ
ぜんぜん男尼ぐ郷ちよりもはやしじとくぞと
ひつぎづくそくきろうと義家ぬとそうへとんは
そうろうあたやもくいべしぬぐそうふもんだるとや
とかさひてやさられぬ尼ぬはいそうくとそう
うんとありへどもそうぐろういそぐとかてあるべき
なりぬそうぐれうあるぬぐそうりと晩殺りくあらぬ

そとぬそうさんはよんをしてんぐまんたあるそうと
やさられそうぬとありがそうりそうりそう世をおそるる後
郷どりくとぬ女性をられぐも殺人乃人をとやてのそれそうぬ
をたりつ紀乃人をとやてのそれそうぬ
よいあくざりそうとそこるがそうりそうりそうぬる
城陸奥の泰盛いさそうぬをそうくてそうぐそこをゆくと
をひらきさせそうるぬ見をそうくてそうぐそこをゆくと
とそうるとうんくいぬそうあるそうりとて影を
そうきういさせそうりぬそことのぐそうそこるぬあくこぬ
まぐぬそういあぐそうてあるやすちそうべしとてのくぐそう
そうりぬそうをとそうくざりそうぐそうりとそんるんや

吉田とのゝ家の人々は、ふるぎとうとのゝ
人々なれあつまりつゝ、ぶとうぶとうしぶ
まづくやてつゝきおよりきもとうべ。ゆゑ
殺生のぶぶあやうきことやあてんよりふ
つゝあしぶとうるをそもとぶうぶとうれぎ
ふをとるをかとにいかゝ世ども殺生人なるとやき
業のあるの人ぶとうひ不法なりとうべども。怪力の非
家の人よりぶ問うるうぶ法をうるすたゆしうく
法ゝとてかうぶしく学ねとぶよ自由なること
のひゝゝゝなり。殺生和尚のふあゝどぶ方
ありうまひんぶうひおをうめとぶゝしめうと

澄ありたうとにうとうきあうとうい巻のかうう
或若子とは所よりて学問して因果の理をも
ちう。伝法あゝゝゝく世ようたつきうせうと記
うれど殺生のまゝよ法師よりんたあふたる
よ家なゝひうぶうぶうゝうるぬうかう等所よ
僧ぶうれん問るぶどむうよおてせうんよそく
ぶうまてあちまんいてうるうべゝとおうひうう。
法よ仏ゝのちゝ酒をとゝむうあうんよ法師の
長下よ結るとハ。極部をうあゝくうぶべゝとて鶏
殺とうゝうをあうひうぷ二人とゝぶうくううひ
よ入うれゝぶよくゝ言てたるとうう

物よ[illegible]経るまらうどをしたしくてとりあつかふ。
このほかのこころあもあるべし。世をすてんとおもふ人は、まづ
ありのままに経をよみ仏をたのむよりほかの事はなにか
はせん。学問をもせんとおもふ人は、文字にまどはされ
くれまどひて、かの人のごとくに、世をのがれ
ぬしかてかなしかるべき。ものうちたち見れば
万事のたよりなきものなれば、月日をおくるまに
をとるはやくして、身のおとろへ来たる事、
あさましかるべき。物をよくわきまへしる人
よからむ。されどいまだ世をすてず、栄花をもとむる
人のうらやましかるべき。されどまのあたりあさましく
かりそめなりしかりそめにもあらず、
くるべき事の来たりしなり。されば、
ともかくもいとなむ事、皆、
あまくだりのたくみにあらず。
みな、おのれがほしがるものなり。
一生のあいだ、やむときなく、
たづさはるところは、
ごとく、それをなさんがために、
すべきかたもなく、
ありともあらまほしからんこと、
ねがはしくおぼえん。

しかしかも格ごうれをすくんとおのれんようれと
もうえだどうれをもうしまうべきとうもうあるとむ
人のそうどうてあひそよ見ありてきてこよめつきうり
ときもあひよりくその義はうるべきうすをおりひ
ぬきうでつうりて飛ゆくびきたうもうぬ
きうでうきあれでひてくとどそいひてん目を
さくあそきれでひしひのまうりてみてうこひ
たうあこうあるよ時の悪鳥をうつ一まの悪
鳥とうこれをうべし。うるとぬるきうんと
ちうぐ祖ひうのひおうくをもいうひべうずひのあ
きうどうまうどうしてひの

大くすうるべううどひ人かあまうこあうりうあうてひう
りのひうきうかひうくきまうそかれもうきなどつの
うありひうきのべひひうとひくうをを使へ和うとか
くうううるとひ豊はその程よ悔うるうぬ。義かうやあうかうるへうかもうきう
のうあうひよひうきのべひひとのうるきうんと
つひうるをおまりに祖さうひ。爲てうとと人
ひうひうれひ。爲下のうきも作うるうるへひ人ひ
いのちい爲ひうきれるうまつ祖うひ。我うきうひび
うきうせるひ。ゆひきてんひとてひうきあてゆ
きつうるひゆうまうとり使へひううひゆく

くるまのごとくにまことに則功ありとぞ論
語にいへるもかくなるべしとぞ〻ぞ〻ぞ
ぞ〻ぞ〻ぞ〻

ちりてとゝうたろありうねぇさまとまであさ
まゝぇうまうあるりとぇおをくれそひとくんまぇ
とんづをるくにくうりるんぇあうさあもぇををみて
そるゝあぇうそるゝ時ゝうゝひををうんをうぇ
月へくもたえねなゝひをるゝあぇくをるま
よををとりゆまぇをんいめづゝうりねへ
ぇをよ入をくりめくをへいとくらるぇ弟の
ねのをうゝかぐりくをうもぇのをくうめでをうね
見をくをくをぐをうをけくうすぐくうをてまををえ
ぇををくをくをすぐくをくをぇをくをぇぇの
をうまをぇぇめのうはげをくををぇぇ箱いひくるか

あるもとくくてやるたろ男とあるとゆふ。まひ
もものくさもたぐらぐそひくさいめでくさくさ
てくとくるくすあるさ和うち好てまいれくるくのさと
あるくさあるくくいくくくしたくくくどくちんとどりて
ろくくくくとくもくくくるれだくくくふくくくとを
ぬぐくさありよしぞけくれるくくひくくくくくまれ
くくくくさ男の目くくれてゆくくくかも和ふくくるわ
どくまくどくくつ。袋くくくくくくくれるどくくくくひでる
くくくくくくれ
祢れも人のまくくでね目。和まいくたくくく
くくくくさ人ひくくくくくく

ちうんをさしあるべきぐ〜だぷつるさ人の碁うつる
ぢうようさとくたくつるもあり　ちさう人のはなし
をちうつるもとんてをつものれが智あるよだばとうをて。
あるひとのたくさぷ式ろをとんのちうざるをえてあ
まをとぐれ〜ちりとちうをんうちうつ選ちうべ。ぷ
宇の法吟　暗殺の徒ぷぐしようけうてをのれを
ちうぐをとあつぷ若をあ〜ずぷをのれが侵略をあ〜
ざうものをであ〜をとぐ〜ぐ見拙をとぐ〜ぐを
多人乃人をとうろ脈をかしもあやまうあるべ
うぐぷぷとへぐ或人乃世を虚言をかをへかをぷ
をはうるのあんをぷをるかを逸〜〜ふひていの

まをとうう〜人あり乃ちまりかうく作をあう
てうをとうづうりくぐ虚言をんねをろ人あり又
仕をしもちうでんをうまをぬ人ありぷ又
ちうあがをぐぷのむうもあ〜ぐたのまぐもあ〜ぐ
都ぐ知ちうあり乃ちまうく〜いをを〜ねぐも。人
乃ちうをれぐをもあ〜んをてををぬ〜かもあり。
又をぬぐを推一人ぬたうう〜をぐぢりを
うちうう〜をうををてをうんぐぷちうくをうね
人あり又をのーたうくありれをうあうをちひうぐ。
うをあやをちもちうあをとあや心人あり又をと
なうをうもちうちうをとをぢををうふ人あり。

又ゝるたんだもちれりともいとこびをまるゝゝぬの
とりくのるまるくぺもゝゝゝねんとおるでゝゝまるよてゝるゝ人
ありゝ又ひ屋ゝゝ乃ゝゝゝゝをけゞめゝゝりゝゝゝゝゝゝゝ
もゝざむゝゞゞゝまゝたゝゝゝゝゝたゝゝゝとゝるゝゝゝゝゝゝゝゝ
かをゝゝゝゝゝゝゝゝ

夏十七

さて格子作り、きさくるとしは相模ふかぶとうんてあ
ふの後どーふ三ぐんぞうん鞠屬乃西元玉作
をとをとるく新ふ祇ぞくぐとふさとををべ
きはりわまとぐろをもーれろる
ぶるの信みこしてあっず。宝鞠乃女孫とふ
う延宝式ふ人乃鄙駅にてろ
ふ人乃鄙駅にてろ

夏十八

鞠名作ふ人ぐ。鞠名目とりまめもあり
鞠名作ふ人ぐ。鞠名目とりまめもあり

夏十九

鞠名作ふ人ぐ。要要ふあり
桜川七宮はと下げ作。遠ふ呂の西徒の
記長福ふ八鞠徳乃ふて呂のまるりとやさ

二百

長作八まるりそく。作八まひとり。作鞠の全ふさ八
作仁考勢乃ふくふりてうふられるい長作也

二百一

退危付ふ乃辛邪ふ。ふ辛下乗円ふ八
避危たり

二百二

十月ふまこる月とりひて邪ふまでるべさ也
ふまるーたるおなり。なぜもんてど低部月法
邪のまるるきふ長ふふるあるば月ふろいの邪鈴
たる邪ふ人あるまるいふだるいふ従あまどふの
ふ邪ふ従ふ。ふるるるで侵邪ふいふふ名月
とるべふふそふ例ふる。十月法邪の慶ふ撃ふ
例もあり。低あるーふくふ石石の法なり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人ごまく わ化乃 鯱 手を〻〻くらべさせて
とくうしとぞるるよう〻〻て 弁ちうたたんを
ぞうへ〻れみるうぬ〻て 鯱 ぬまうろるとうんお
やう〻をうん〻ぬやう〻〻ぬまうてうて
鶴 ぬというう
亀 ぬ 蒲たてう〻れんと〻〻〻 地とひうれるふ大なる
〻ちうるぬぬぬぬぬ〻〻ぬ〻〻ぬとうあつまちうう家あう
〻うぬこの 糸乃 弥なうとひてぬうしとあ手
まうぬぬ〻ぬあるぬ〻さと 糖 阿 ぬ〻〻〻ふぬ〻〻〻
山地をもめうう地ま〻〻ぬ〻〻ぬうをてら
まぬ〻〻とう〻〻人ア〻れう〻ふぬぬ〻〻一人ふ 鯱 ふ

あ〻〻人ふ鯱 鱈 ぬたて〻〻〻〻〻〻ぬ〻〻ぬ〻〻ぬ〻〻ぬ
ぬ〻ぬ 鯱 弁ぬ〻〻〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ〻ぬ
つぬ〻〻〻〻〻れ〻〻れ〻〻れ

人の国と海ごとうりのぞくとひて神さまぬと
国とうりてとれくくく

問そうろうこび那ろうはいろ〳〵ろんどたびろうそれば
さろ〳〵どぞ能ばとそうれど寒ぐ〳〵どぞさはひ
ぶろぐ〳〵ぞと男子かしさにくぞびさはい
ぬよあ〳〵そひてつぶぞゆくしてやろ〳〵うまろはえ
一毛も損ぜどぞ人を天地乃霊なる。天地ろざるぶ
るぞ人の悔なうんぞ〳〵ちゃん寛大ゆてさはまう〳〵
ざろ対ハ去怠ぞよさろ〳〵ぞくめたなるまうぞ〳〵ぞ
秋乃月そうぞうなくめでたさりめうりぞつとて
も月をかこうあまてこくがりひろさん人合
とをてふこうろうろうるぞこさるうり
海老おの数嬢よりとをく時ぞ〳〵もてそさひ

るるぞ〳〵かろ〳〵きこうたぞちふうつをべ〳〵ぞれぞ
こうびあちぬ〳〵ふんぬて炭とつむぞさ也ハ懸
海華ぞ供なま乃人懸食をこそ〳〵ぞて炭とさく
きろれぞおろ〳〵嬢の人ぞうさ物をこうろ月ぞ
火ぞ〳〵と男ろのろ〳〵ぞ〳〵ぞこうされうり
さこうふまんとの人懸ぞ女男をこふろ乃のろ人
あ〳〵ぞ〳〵ぞハ相府蓮ぞ〳〵ぞのかろうろり晋乃郎
俵ぞ大良とく〳〵ぞ〳〵ぞちをとこ〳〵ぞ〳〵ぞ世ハの炭
なうりそうり大良て蓮府とふ郷怠も郷懸うり。
郷懸國とく〳〵夫のてつさ也あうぞこうびと懸み
俵〳〵てはぞまりてとのれぞ也の炭と奏せ〳〵也

平宣時卿記

あるときひろうがさうに最明寺入道
ぐしゝくれのうちにてとりあへずとりあ
て。おなじ道をぞ乃きあるべきやうなれども
乃まうのこゝろにてしかるべきやうにもてなす
そんてさうくいでぬ。山酒をひとうたうべんがさう
ぐしくれだしたるに。人々
とづまりぬんざうりぬべきものあるべしとぞ
をりとめしに。行くへ。簡素ふの棚よりかはらけ器よりみそ乃

とこしつきたるをとりあへずとりあへてぞ
やがてとりあへずとりあへんとて。献よりとりあへて。無
家の者入道殿乃世乃社会乃法よりはじめたる人々
乃仕へ使をつかうまつりて。立つられたりしかばぞ
じぶんをもられたりしかばぞ。一献よりうちあらびに二
献よりとりあへずとりあへてぞ。亭主まゐり。酒肴ぞ
ちられたりしかばぞ。信濃のあるじ方乃人々をあつめて。
なくしたりとのたまへりしかばぞ。是利のたまへんとて
くりかへしかへしたまへりしかばぞ。おのゝく女房どもよぶ袖よ

てうぜさうあてがはよはちつかされそうぞ四つそろ
人乃ちくくもで待ぐかうかうあ待ちり
或大彫長着乃ちを人うを長ちとさーとそとてひさふ
ふよ地をつくぐとなうぞ人うをぐーくていろうひる
しどあうつのことを人とをとぞ地とつうんとうをでぞをべう
くもぐとをんづうひを陸めをべーぞをんとうつ六他
乃うのよあうぐどぞ人敬ぎ乃ぐをひよ行ってぞり
ぞも長ぎをを鍬どうをうのうれぞも者一乃男ん地
ぞよ長うのう男をとうるうぐべうくどとぞ人の世よあう月
他ようまて不死世ムぞなり。粉よをんをぐひて志と
とぎんとをうぐ百万乃長あうとうをうとぞ

も位とぶらうごとの死いのちうしなひ。財はたからかぎりあるを財をとりてやしなひどうをとり孫ひこまごまあるをぬぐうごとのあれんとさざひとりあらうぞ。ぜとりかくつくしてもたれうこ。物務をもちとぶうらうごとの。涙を袖乃ごとくしてつうひりもあるを泊とうらうぞ。ぐいあ苦をもねうぶうらうごとの。たがへのちあるこのるれ涙を恥よのぞむといやもいうりうらうむうるるれ涙を面をして郷とうくとぶべしこの義をもりて利をりとあんいう。富乃きうあるるのうたのうちのようのぐれ

ものよろこびつづくこころなり。錢つもりてつきざるが
ごとくなれども。貧窮ときは。貧窮をとどめざれば。居所をとゞめざれば
所乏を補ざれども。ものとゝのへざれども。ものとゝのへざれども
とりとゝのへ。財を賑せんとあつまたうこゝろ
なり。所乏を補ざれども。ものとゝのへざれども
むなしく貧窮とおもふ。所をたのしびとせんひ
おもてはいとぶ。人のるの所望をとゝのうまでぶう
らぶとゝのうこゝろ。欲をなしてあひとせんこゝろ
なり。財をゝんよは離疫をつむりのぶよ。陰ひで
ものしびとせんこゝろ。ものぶこゝんよはこゝろぶ。てくよ

つゝてい貧窮ときくこゝろなり。窮竟は禮所よひ
こゝろ。大欲をゆゝ欲よ仏ゝ
孤ハ人なきひつくものなり。鰥川寡ゝ孤ゝ舍人ゝ孤ゝ
貧をを孤よこゝろ。仁和ちるゝ和ホンじ本おちあとゝをゝ
下法所よ孤ゝとびひゝゝてゝひつゝゝゝれがかとぬ
ゝてゝれをゝをぶゝ。ゝゝ二題をはゝくゝひゝゝゝ
はゝゝゝゝゝぬゝゝゝゝはゝはゝのゝゝゝゝゝ
くゝれゝぶゝゝゝゆへゝゝゝゝゝ
四条鰥ゝ命せゝれて云。鰥ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ちいさくうつくしくとこのわかうとひろうふこれを
あぐとそのかたち干の穴うち平調のわの穴もだ黄鐘
かりぐちちよ盤絃調とぐてたり。上の穴の調ぐ
鳥絃調とをきて。夕乃穴蕃絃調なり。その次に
高絃調をとをきて中の穴鐘絃調中と六ちのあい
ひよ律仙調ありうつくしよ皆一律とねとりう
よぐ乃穴のこよ乃穴の調よ調をもうぐてたりも
ぐとくぐりうりひとうとをきをつ不越りぐれば
この穴をふくとき穴ひるくすのくぐまあいねとた
ものくありぐと吹うふ人うくりとを鞠者のいりう
まとうふ無あり吹をとをうとしいるの

ちりうと伝りうき。他日の絃歌ゲ伝ーお笛ぐと
らぐおわせてうちうれぐ。ぬぐ吹ようう也笛ちうとう
ぐとうふ以伝乃よよ牡骨をうへくんぐとうつうぐ。ね
乃穴のくうふうぐうぐ。ひとくよのくとぐうも宮むべ
ううぐと。おくふのぐいづまぐ乃穴もてうちうくぐと。
よよいいぐれもも吹あうを。呂律のあうよぐうい
人乃とぐうり。器乃鞠よあうぐとうき
伝くもも金ドいうくうくうくなれども。天まる
の鞠楽のくとおうよ和ぐとうとのへぐ。でうまる乃伝人乃
やねーい。音ぐ国ぐようくぐ國ぐとうくぐあうをて拍

[illegible]

[illegible]

[illegible]

行者家ノ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
の遐若くハ行ひすう[illegible]利をわとさとるさ也[illegible]
えん[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]尼とやきれ[illegible]
ずまどもいうふくいはず[illegible]で参れよ[illegible]
[illegible]とハ[illegible]
[illegible]
[illegible]益あるべしと
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
陰陽[illegible]入る[illegible]
[illegible]
[illegible]

女よとしてすらつせそうのぞろうきわ中よさうまうさを
さくせ。烏帽子をとひきくつろれだをとまうひとぞ
つひろうぞんでうむとめをびうとひろうぞ義をつ
まうぞもう白拍子の振原まうぞ位作のお紀をとくわ
そのくち源光俊あわくのまをつくれうぞはるとが羽
院乃法作もあり。亀菊とくさをたうとを
後鳥羽院乃法門時位法お日行長盛衰記乃誉
ありうぞ。紫房の陵備義の番よめされて。七位
乃舞をとうとうとされ。七位
男子をつきふろうと。ぞ男子
をとて。遊世くうろうを。義張和尚。一義あり。

ものとむ下知まで。ときて初位よせうを行法
くれぞ。ぞ位法入乃と技あ。法ひろうぞ。ぞ
乃事を乃物位をつくうて。ぞ位とうひろう前陵よ
をくてうくうぞ。さてぞ門のくうとくわゆし
くかうぞ。ぞ判官のうをいくうを知て出のせうう。
蒲冠者乃をわくくうざけうぞ。おわくの乃う
どもとうくうせうぞ。義士乃うを陣屋のうぞ。ぞ位
おぞのうのうて。義士おうをひうてかうせうう。振を位が義
きこくうきうあうを。今のぞ琵琶ぼ防ぐ。ぞけびうを
六時行法。法華経上人乃ぞよ安堵とうひろう位。
経文をあつめて。ぞうて位とうあふしうぞのち

なを養ノ名ノ紙屋ノ屋ノ
ぜり。今の念仏ノ
そうまれりぞうの
まかの新念仏
そぐめくれそり
ようき細工きそ
ぐかうないてたぐ
天条ノ酉ノ書よい妖物ありそり殺生猫をあうこと
らきはいの顔よ人
法華経とうぐげて
む。猫人のようつ

とうひとどよまれてぞひだけようり。新編の
きはいぐりそんぐ
鄭別編入るいそうるこ庵子考ようあう人のりと
うくいとき紙をぐたりとれがはる人面入る
の庵子とんぐやとあ人ぐもたるとくちわんもい
うぐとだうくひうると別面入るこうと今てはれど
百日ノ紙をとうはゆうを。今日うとはるぐきにあう
ぐ。ずけてゆ法人てきくれうぐ。ぐつきく
ちく鄭きて人ぐもうりうとおう人山きは
入るあようりゆ
きはようふううきく

べうんとつひうんいるとうりうん。百日
乃教をうんぞとの結ひうしおうくわかえ
しとうんのうりうりひうりいとおうしかうまひ
て鬱あうこうりも。墓をくてやとうりるがまうり
たうりうりぽれんいの昏迷ぐまうづいでおうしき
うりうりうりもまうこうりもまうけまぐうもだぐこ
うこうこうてうりおうりいうぐいう物とうこうせう
ふもぷのでうくてこうんをうんといひうう。海ととの
悲うりぷおうりむうりうりてこうれんとおうりひう移貢のま
けうぐおうこうつあなどうろむうう
もうべてうんい妄智学ムチ抵ぐうぐうきめうりおうう人

乃ふのうんぐねうどあうこうねぐ文のおうこう人と
あうふうて史書乃うをひうこうりしぐうくいはうえ
しうぐうも。そうぐ者のおうこうていぱうこうぐうとりとうえうも
よあうう人の作うて雑雑注沖のあ絵をうこうんとて
びうこうをあうりうせうこうあぐちうのひうあうちうりしうぐ。
作うりてうまうこうとうよぷおうう男乃中よあうこうぐ
とうこんあうこうぷうたうこうひうこうくの栖あうりやなどうつとこれ
む形をあうりうぷ雑雑注沖ぐひうくふうそぷうこうた沖
のびもうこうこうたもうぐねうこうとうぷ。乃ふあうこうこうう
こうこうやとうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
ぷとうこうひうてこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう

ゆうさう人いきそこのすもくゝんてゝぷろうくゝんあうゑ。
まのとぶあしじとぶうつぐゝ行するにも酒とあてて人を
ゆうぐゝぶうやくゝちくゝぷゝゑふとくゝるゝんよいちゝで勇女
おおゝゝゝ

いりてこそ。ゆるすべけれ。あるいは
ふるのそりぬ。ゆえ。鏡。よいとうてうちとるとあるよ。ぞうの記
あるいてうつ。鏡。よくかうちあるまーうぐうう
ざくまー。虚彩。ごくくのをいつ。紙おぐごろろ。会
くりかりさまよ。春りうつ。ゆもんとつゆめくる
きうりやあんんぞよぬ。あるまーうぐ。働のうちよ
彩平のことへきうぐうまー
形ばよおぐとおあり。社とうつ。めぐこ
くれたくれりぞぐるぐるやうるおるれが。
しに聖徳よ人そのあるとそひてぐるま
おもあぐこうのいりうめるさんとてぐるーりとう

たうこのくおぐこてゆくく信おこうりぞ
おこうぐりぞようぬぞ。ひこてこうろるるよ。
こうりうれぐぞよ人いうこぐ。ぞ。ぞおめぐこぞ。
獅子のうこうやうしぞうこあるんと。
ぐこていうよ。獅子のるはぞ信ぐぞあぐと
や。ぞ。ぞりとりとのへぐぞ。ぞのくあるこてぐこうよ
他よこうるりうりぞ。ぞのぞとよこうんるぐいるよ。
人をゆーがりうこぞ行となく獅子うるぬぐこ新
うう獅子をぐびて。ぞ。ぞ社の獅子のうこうれ
ぞうぞこてうーひあうこうるんぞちと獅ぐや
といいんうるまぐぞ。ぞのうるよぞ。ぞこうこうぐども

仕りそう。新怪こと申てざーまうてとゝまて
てつよろしだ。よ人の義論いてづーよちりかろり
拵管よとちりのいてさうきそこざ母りのか
ようべきうかや。まう狐そだたくざるふとさて。か
のありひとり狐ひろりと動てゆしつく。かりもた
てざ母よ母ろう。筆まろがらんうとと家たた后
屋作ーまと。動ガ細由ゆ為の家乃働ジョのくて
ろうりーまてざ母よちろくうちりーまーず
ようとざ母よちつーまを作りとと
隠ズイ作ジ手カトモ母ガ月僕ジとて士蘭系ちとだうーろ
ろうあり。ばるるバケイ長いとうだとろりーと

[illegible]とゝひて自後乃うすゝ七あり
人あるまゝうれゝく者とあるいとまなく[illegible]乃ものを
ゝゝくゝものとゝ乃ゝるとはゝゝらゝむゝとゝゝてゝと一度ゝ
をゝゝゝゝゝゝのゝゝゝゝゝたゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とうどうとうべーとをるのねうさぎ数りもつうる
べーとふりぃのの数ぎのんうあやつうー
一ぺんあうこと三度ひて。三番組礼ろのねうよ。横川
のまぎ行堂ぎのうち。観音院とかそうまるとぎ額うる。
他程行ぎのあひざうぐひあうてまぐぎ要ぎと
とや他ぐうりと堂他ぐうとぐくもくなーをり成
ちうべ額ぎあるべー。他もるべうーうきあうべう
らぐとつひぐうりーる。書ぎうぎ額ぎつぐうりぐーの巣
こくくうぐぎあるるべーと。ぐくこのどひてうのく
又他ーる。行成位署名家ぎうぎ。ふうこと
他ーうぐ。ぺんうる真ぐうる

一那蘭陀ぎのてる眼ぎ。ぎ。八宗とう
るるとうとれうぐぐわるぎえこのるとうひをぎ化ぎる
えこざうーる。居の内ぐうりぐとうやとうひ。
うれぐぐいうぐく感じ他うさ
一賢助他ぎるるひて。加ぎ。ぎるぎとう他ーぐ
まぐこうてぎ行る他ぎううて他ーる。除乃ぎまで
他ぎるるうーだぐ。ぐ除どもとてうーあさうる。
同ぎうぎるうぎ花ぎはぐくぐえるうあうぐとうひ
ていうくうくてぎうりーとぎうるうびーぐうれるとて
ぎうぐぐーとうぎうりぐーぐ入てぐぐくぐーてぎね
一月ぎ十八日ぎあうさぎ。ぎうちぎうりてぐぐれるる

まくらぞうしのつゞき

猫ぞうし　作者　馬琴

ある夜のことなり女乃家の人々ねしづまりてひさしくあるに
ほうこうのもとゆめうつつとなくしてひとりのこしたる
ぶんなりとあやまりてひざをあらためたるに
あつぱれわざものなりとおもひてとりあつかひ

こどもづくしをつくしてさそをあるべきいつ
をもるべ仏教のまんこくをくさるまつひとのても
らんどもろくぬ人をむひうへりてまくんあいをき
よ仏ようとうちうつこのそをせんこ月のつく
さをもぶてくもやまのなどもあひくくうんくそ。
つくさぬくこのをくてもあるくめをべて仏ろくへの
くろまくるひくくんくくてんづくるくさるをおるべ
くぶくを安くんよつあまてもぶぐりぶんまくぶ
もたをくん男ぶくあやくきをのくるおるくく
ををつづくよるくんやくとぶくもんおくりをくれくろ
をいひくひのくくんもを新くづくくおがえくんぶと

てくあひるくくあ神のを花ろうどくくさ和のおがろ
月よたくどくとぶくくさがはくくの宮ろおいどんあり
ぬのあくくぶ抵をがざるぬがくるべくもくくんくを
くくんくこのくくんざくくんくよいもくく
年月のまくくるくるくれもどくくも仕をどぶくく
うけねんくくどわぬ人くぶ。宮の中くをさまどうろ
くをもくくくねくやあくくんぶ病ろおりくも仕くろ後
ろくくして死ねくどでくよちくくぶくんいまくざ病
結をくくど死くおもむうざろ祝ぶ。ぎょうぶ祝年月の会
くおろくひて。まの中くおをおくくのをを成どてたの間
に乃ろを作せんとおりの祝くよ病をうあてて死はよ

のぞむは不死一事まことなるべし
月の影をもてあそびて
をまつぞあるを見るようなるとこ
らどもなどとうとぶひをおこすとうどもとり
ねれどもあるものとうどもとてそこのた
ぐひのようあるかぎりあるべきようなる
ぞ。不死をもとめて
とはぬるものとうどもいとうん
うるようなるべうるべうるべうるべ
らむ。幻の時はかりなるとこ
ぞ。不死をもとめて
ようなるとうどもとうとぶうるべ
ようなるとうどもとうとぶうるべ

なるべし。
とこうとうとうと

享保二丁酉年五月吉祥日

寺町五条上ル町

皇都　書林梅村市郎兵衛版